開催地名：石川県中能登町	
開催日時	令和元年 11 月 22 日（金）　14：00 ～ 15：30
開催場所	中能登町社会福祉センター
語り部	吉田　亮一　（宮城県仙台市）
参加者	中能登町区長会　約 50 名
開催経緯	これまで大規模な災害が起こっていないため、住民の災害に対する危機意識が低く、避難の重要性等の認識が薄い。また、町の訓練等においても、「自助・共助」の意識がなく、町が全て何でもしてくれるものだと思っている。特に、若年層の意識が低い。さらには、各地区で、自主防災組織を形成しているが、ほとんどが機能していない。以上のことから、語り部のお話を伺って、今後の防災活動の糧にしたいと考えている。
内容	（１）防災の基本とは 災害への危機感についてどのように意識しているか考えてみてほしい。「心配ない」、「ありえない」、「大丈夫」、「まさかと思う」等、これらは全て人間だけが思うことである。新聞やテレビのニュースで「まさかこんな大きな地震がくるとは。安全な地域だと思っていたのに。」という話をよく耳にする。防災に関して言えば、常に危機感を持つことと、想定以上の備えは基本だと考える。様々な自然災害が今後も発生すると思われるので、全ての責任者は最大の危機感と想定以上の備えで命を守る事を最優先でお願いしたい。「想定外という言葉は単なる言い訳である」ということを是非肝に銘じて頂きたい。 （２）危機感と想定以上の備えは全てに関係 危機感：相手は自然災害。「まさか」が起こりうる。これが災害である。 想定以上の備え：想定外という言葉は単なる言い訳である。 自助：各家庭においての防災は、災害の知識・備え・共助への理解と努力。 共助：地域において、自助への協力と公助に頼らず共助で解決する。 人間には考える力、行動する力がある。自然災害に勝つには、危機感と想定以上の備えが必要。 （３）平成 18 年から行われた５ヵ年の活動 災害に勝つために、平成 18 年からありとあらゆる準備を行ってきた。まずは町内会の企画と計画で防災マップ、防災マニュアルの作成を重点的に行い、管轄の茂庭台５丁目全 269 世帯に配布した。そして、同じく地域において、消火班、救護班、避難誘導班、給食給水班、報告連絡班、警備班からなる自主防災組織もあわせて設立した。これらは、前年の班長が自主防災組織委員になった

	うえで、それらの役割についてもらった。持ち回りのため、５年も経てばほとんどの世帯の人々が経験することになる。従って、災害発生時にはその班員がいなくとも、経験者が担えるようになった。それと並行して、毎年５、６月には防災勉強会も実施し、町内地域において防災に関する意見交換も行った。それらの総仕上げとして、あえて勉強会の内容を忘れた頃（具体的には毎年９月頃）に総合防災訓練を行った。当該防災訓練についても、昼に災害が発生した場合、夜に災害が発生した場合と交互に、地域全世帯の方が全員参加できるように日曜日の開催とした。更に、通常は働いていて、大人が自宅や地域にいない時間帯を想定し、平日の昼間に小中高生を中心とした訓練も実施した。 （４）大震災発生時 前述した「５ヵ年活動」で行っていたことを実践できたことで、各避難所の運営はスムーズにいったと思っている。その中でも重要な要素を占めるのが、小・中・高生に、ある程度の役割を持たせることで、震災後の避難所の対応やイメージが良い方へ向くということである。結局は、地域ぐるみにおける日頃の積み重ねが、いざというときには非常に役立つ。
開催地より	東日本大震災の経験談とともに、その前に行っていた災害に対する準備についてや、避難所への避難誘導や運営に関することをわかりやすくお話しいただいた。今後の自主防災組織の活動にも、大変参考になると思う。